



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリストの新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕

〒165-0027 東京都中野区野方1-55-1 天門教会内 日本クリスチャン・アシュラム連盟 振替口座 東京00100-1-4558

聖霊に満たされ

使徒言行録二十章一〜四節

スタンレーアシュラムのキーポイント

アシュラムの最も大切な目的は聖霊に満たされることです。E・スタンレージョーンズの著書「日々の勝利」を見ますとその254〜260ページに「聖霊を受ける道」と題してその動機、目的、方法等について十項目で記し、その①の項目で次の様に述べています。「神の贖罪の終局目的はあなたに聖霊を与えたもうことであつてご自身を与える事をその目的としておられる。受肉も、贖罪も、復活も皆これは準備的なことで、愛なる神の目指しておられる所は私共の内に入りそこに住み、私共と最も深く親しい交わりを持つ事以外にないのである」と。②では聖霊は元来キリストを信じた者が与えらる賜物である。新生によって聖霊をある程度受けるのであるが、今やこれに満たされることができるのである。③二千年前になされた事を、今になって神が聖霊の賜物を与える事を拒むとは考えられない。神の前では千年は一日だと言っている。④聖霊を受けられないのは神の側に何か妨げがあると思うべきではない。妨げる人がただ一人いる。それはあなた自身である。⑤以下では障害の一番大きなものは自己倭委（自己放棄の意味、自己を主に任せる）が出来ていないという事であつて、どんな場合でも聖霊を妨げているのはいつもこれである。これらの課題を見事に克服して聖霊の充滿を与えられ生涯の凡てをインドに献げ尽くしたのが我らの兄弟Eスタンレー・ジョーンズなのです。彼について伝記は何と言っているでしょうか。

スタンレーは一八八三年二十三歳で米国メソジスト教団の宣教師として、インドの救いのために召命を受けインドに渡り、その民衆



日本基督教団

牧師 横山義孝

の魂を救いに導きたいと、全力投球をもって、伝道、宣教に臨んだのです。ところが、伝統的なカースト制度、極端な貧富の差、精神的、物質的窮乏状態は想像に絶するものがあり、行くところ、スラム街の貧民の生活が立ちほだかり、八年間の民衆への宣教の労苦は思いの様にならず、遂に彼の肉体和精神が破壊状態に追い込まれてしまったのです。一年間アメリカのケンタッキー州に帰り休養したのですが、インドに帰って仕事を始めること、またしてもその肉体的破壊状態が再発するという状態でした。

彼の著書「インド途上のキリスト」には次のようにあります。「ラクナウの教会で祈りの思っていると、『わたしがあなたを召したこの仕事に、あなたは用意が出来るかね』とのみ声が聞こえた。私は答えた『主よもはやおしまいです。わたしは精魂も尽き果てています』すると御声は『もしお前が心をめぐらして、その問題を私に帰しそれについて思い煩わぬならば、わたしがそれを処理するであろう』と。わたしは直ちに答えて『主よ私は今ここで約束をとりきめます』と言った。凡てを主に委ね切ったその時、ある大いなる平和がわたしの中に入り込み、全身に行き渡った。わたしはしめたと感じた。立ちみてる命（聖霊）がわたしを満したのだ。その夜静かに家路をたどりながらも、地に足がついていないかのように心は高く上げられた。私は自分がキリストご自身によって所有された事を感じた。」

彼はここでキリストに対する全き自己倭委の信仰によって聖霊に入れられ、絶対服従の信仰を与えられたのです。私達もキリストに対するこの全き自己倭委の信仰を献げ聖霊の充滿を頂きましょう。ハレルヤ。

霊 想

主の命令



牧師 山本悦子

下妻シャローム

キリスト教会

軽井沢夏期修養会

五十七年前（一九六三年）の夏、教会で行われた軽井沢夏期修養会に初参加し、集会が進むにつれ、私の心はすっかり主に捉えられたのです。18歳の夏でした。

牧師のみ言葉の解き明かしは、「蜜よりも蜂の巣のしたたりよりも甘い」愛が、希望が、ビジョンが語られ、砂に水が吸い込むように私の心は慕い求めました。人を赦す愛の深さ、信仰より与えられる明るさ、遠大なビジョン、心は躍動し始めました。それに加えて、気持ちよいほど厳しい教えが盛り沢山ありました。「手を鋤にかけてからうしろを振り向く者は神の国にふさわしくない」等々。

信徒の証しが、激しく厳しく、これまた素晴らしく、私の心に火が付きました。赦しの証し、時間設計、経済設計の発表に至っては腰を抜かすほど驚きました。寸暇を惜しんで奉仕し、献金は十分の一

どころではありません。こんなところから逃げ出さなくなる…。そんな思いは爪の先ほどもなく、斯くありたいと願い、即受洗に導かれました。受洗して二年後、教会職員として献身し、寝食を忘れた働いたこと、それが私の青春時代でした。

結婚間もなく、教会を辞された牧師を支えることになり、並大抵ではありませんでした。若かつたし明るく生き生きとするために働きました。

郷里茨城に家を与えられ、老後はここで晴耕雨読で過ごそうとのんびりしていると、なんと神様は「座っていないで立ちなさい、歩きなさい、会堂を建てなさい」と命じられました。なぜなの、どうしてなのと問いているうちに、「あなたがするのではない。わたしがするので。従ってきなさい」と言われました。

十一年前、会堂は完成し、すでに牧師館、墓地も与えられ、これからは伝道オンリーと本腰を入れ始めると、次なるは朝禱会を発会せよとの命に応え、今に至りました。もうこれ以上間口を広げるのはすまいと心に決め、牧会と朝禱会に専念すべく心に決めていました。

常磐アシュラム

十年前、クエーカーの集いが下妻で行われ参加すると、ある牧師より、常磐アシュラム、教職アシュラムに参加を進められ、この牧師との出会い

が、これから神様が私になさろうとしていることのできかけでした。常磐、教職、京浜、箱根、オリブ、埼玉、城北と参加をしているうちに25年続いた常磐アシュラムがオリブに代わり、茨城でのアシュラムが無くなりました。各アシュラムに参加しているうちに、下妻で茨城アシュラムができないものかという思いが沸々し湧いてきて、ファミリーでそのことを報告すると、ある姉妹が「神様の命令を断つてはいけません」と言われました。その言葉に押し出されるように、榎本恵先生に相談し、励ましていただき、第一回を二〇一九年三月に開催、34名が参加されました。第二回を今年三月と定められましたが、新型コロナウイルスで参加者が減り、中止するべきかと悩みましたが、それでも21名が参加されるといふ恵みに与かりました。

第二回茨城アシュラム

「イエスは主なり」と題して横山義孝先生の力強いメッセージをいただき、ファミリーの交わりも素晴らしく神様からの大きなプレゼントでした。危ぶまれた第二回の茨城アシュラムでしたが、神様がきめ細かく導かれ、皆様から参加してよかったとの感動が寄せられています。

「人間にできることではないが、神にはできる。神は何でもできるからだ」 マルコ10・27

関西地区支部報告



日本基督教団

大阪教会

脇田真一師

二〇一九年九月二日(日) 午後四時～二三日(月・祝) 午後二時まで二日間、「母の家ホテル」(神戸市東灘区御影三丁目二七―二二)で、第五三回関西アシラムが開催された。午後三時三〇分に関西支部委員が集まり、祈禱後、予め用意して来た主題、聖句、祈りの細胞の割振り表、部屋別の宿泊者名等を会場や受け付け付近の側壁に張付ける作業を行った。参加者も定刻までにはば全員が揃って、午後四時からの開会礼拝を迎えた。

参加は一九教会、三五名(信徒二二名、教職一三名)、男二二名、女一三名)であった。主題は「教会への奉仕と伝道」、主題聖句は「神は御言葉をおなたがたに余すところなく伝えるという務めをわたしにお与えになり、この務めのために、わたしは教会に仕える者となりました。」(コロサイ書一章二五節)である。

「開会礼拝」は森哲さんが担当、「開心の時」は脇田真一さんが担当し、参加者全員がこの集會に何を期待して出席したかについて発表した。「祈りの細胞」は五組に分け、各組のリーダーには委員が

なった。

「福音の時」は助言者として招いた伊奈聡氏(日本キリスト教団喬木教会牧師)が「心(思考の世界)を耕そう」と題して、マタイ十三章一―九節「種を蒔く人」のたとえの箇所について話された。蒔かれた種は四種類の環境によりどうなるかの説明があり、即ち道端に落ちた種は鳥が来て食べられ、石地に落ちた種は芽が出ても枯れ、茨の間に落ちた種は茨(世の思い煩い)でふさがれて育たず、良い土地に落ちた種は(聞いて悟るので)百倍、六十倍、三十倍の実を結ぶ。実を結ぶためには聞いて悟ることが大事です。良い土地とは身を低くして聴くことです。私達が悟るべき、理解すべきことは神様が私達を愛しておられることです。神は私達を愛して、神の国の力を下さった。その力を持って、「主に仕え、世に出て行き、福音を伝えよ」と言われた。この愛を悟る時、私達の内から恐れは消え去る。「神は私を愛しておられる。私は愛されている」。この愛の信頼をもって主に大胆に仕えよう。「実を結ぶ」ことについて、日本の教会は刈り入れを牧師だけに任せる、人任せにするという傾向が非常に強い。主に召されている全ての人はこの刈り入れに携わるべきです。福音を伝える務めは教会が負っており、あなたはその教会の一員であり、責任を担っている者なのです。牧師は刈り入れが出来るように聖徒達を整えるのです。これが牧師の刈り入れになるのです。「イエスは主」は含言葉であり、主は全世界を治めるお方です。この主が下さる愛と力を受け取り、愛さ

れている喜びをもって主の御心を行いましょ。

また、「朝の祈り」は「父の物は私の物」と題して、ルカ一章二五―三二節から伊奈聡氏が話して下さいました。父である神には二人の放蕩息子がいて、弟は旅に出て放蕩し、兄は父の身近で居ながら、(心は父の)近くにおらず、(何も)用いない形で放蕩をした、という話です。親は最高の物を子に与えたいものです。兄は父のところに行ったのに、父の大きな愛、寛容な心を理解できず、惨めな生活をしていたようです。それで、弟が帰って来た時、弟のために宴会をしてくれた父に対して「自分には何もしてくれなかった」と父を責めた。その兄に父は何と言ったか。「お前はいつも私と一緒にいる。私の物は全部お前の物だ(三一節)」。兄は自分に与えられている豊かさ(与えられていない)と思うことによって、父の財産を放蕩していったのです。兄は父とのコミュニケーションを十分取っていませんでした。御言葉に導かれるなら、私達は富を豊かに用いるものとなる。

「静聴・分かち合い」は深谷与那人さんが担当し、「充滿の時」は金武士さんが担当して下さいました。はじめてアシラム集會に参加された方も数名おられたが、非常に良い集會であり、来年も続けて参加したいとのことであり、神様に心から感謝申し上げます。

(関西支部書記 脇田真一記)

日本クリスチャン・アシュラム連盟

事務局の奉仕

日本基督教団天門教会

牧師 貴村かたる



主の御名を崇めます。

事務局石井寛兄の後任の貴村かたると申します。昨年十一月の関東地区アシュラム委員会、アシュラム事務局の後任に大変困っていることをお聞きし、私は心の内で「あなたが手伝ったら？」と僭越ながらひそかな思いを抱きました。クリスマス頃、理事長横山義孝先生より石井兄の後任の奉仕のお話しを伺った時、このお勧めは主からのご命令と心に受け止め、お引き受けすることにいたしました。

新年に日本アシュラム理事会のそうそうたるメンバーの先生方の面接を受け、後日承認を賜ったことを重く受け止めました。

これまでの石井兄の事務局としてのご奉仕を拝察しておりましたので、私がお引き受けすることには大変な決断を要しました。

今後の期待と課題に触れ、こんなにも責任が伴う奉仕をお引き受けして大丈夫かなと思いましたが、しかし、出来そうでないと思うことは主

の僕として本末転倒だと考えなおし、これまで培った社会経験やノウハウとともに、神の賜物と召命を武器に、現実に対応していく女性特有の忍耐強さで奉仕すればよいと考えております。

石井寛兄より引き継いだアシュラム事務局の奉仕内容は、彼の人柄の優しさと共に真剣な厳格さでした。事務局の引継ぎも三月末で完了しました。事務局として、全国レベルのアシュラム連盟と理事会の先生方のご奉仕が実を結ぶ為に努力していかねばと志を抱いております。

日本において、世界において、主の御言葉に聴き従うという、アシュラム運動の大きな働きがますます広がっていくように、アシュラム連盟の働きにお仕えますので、今後とも背後でお祈りに覚えてくださいますようお願いいたします。

長きにわたる事務局の石井寛兄のご奉仕に天父の豊かな報いがあること、またアシュラム関係の諸教会の上に主の祝福を心からお祈りいたします。

神の憐れみがこの疫病から救ってくださいよう心の叫びを日々天父に祈りを届けましょう。

アシュラム予告

- 西川口教会 五月二九〜三十日 中止
- 浦和別所教会 六月七日 延期
- 仙台青葉荘アシュラム 六月 来年に延期
- 横浜岡村教会 七月一三〜一四日 予定
- 九州アシュラム 会場 カトリック黙想の家
時・九月二〜二二日 助言者 蛟嶋則雄師
- 関西アシュラム 九月に 延期
- 志木教会アシュラム 九月か十月に 予定
助言者 西海満希子師
- 北海道函館栄光教会 十一月三日
- 関東アシュラム 開催は七月の委員会で 決定予定

編集後記

世界中に突如として湧き起こったコロナ禍は、平和に眠る人々の感情を呼び覚ました感が否めません。緊急事態宣言が緩和されて、現在はコロナと共存する新生活様式の実践で、少し不自由を感じます。アシュラム運動がこれにどのように対応すればよいのか、と案じている毎日です。事務局も、アシュラム啓蒙運動のビジョンに精通し、推進に傾注したい所存でございます。事務局主事と着任致しましたので宜しく願ひ申し上げます。未だ出口が見えない状況ですが、読者の皆様にはクリスチャン・アシュラム運動の継続のお祈りご支援をお願い致します。

